

伝国の杜 こども狂言クラブの一年



「和泉流狂言師山下浩一郎先生による稽古②」

平成 25 年 7 月 28 日（日）

伝国の杜こども狂言クラブは、平成 25 年 7 月 28 日（日）に、本年度 2 回目の山下浩一郎先生による稽古を行いました。この日は、9 名が稽古に参加しました。

この日の稽古では、狂言・小舞の演目ごとにクラス編成を行い、クラス別に稽古を行いました。前回決まった演目の台本を読み進めて覚える期間となるので、主に小舞の謡と狂言のセリフ読みの練習となります。

小舞「七つ子」、小舞「宇治の晒」、狂言「仏師」の稽古に伺いました。

◆小舞「七つ子」



小舞「七つ子」謡の稽古風景

前回の稽古では、小舞「七つ子」の配役を決めました。舞は女子が担当し、男子は謡を担当します。



全員で謡を覚えていきます。

謡を、山下先生が手本としてうたった後に、続いて声に出していきます。

発音や音程などを確認しながら、しっかりと発声を行います。

◆小舞「宇治の晒」



小舞「宇治の晒」稽古風景

小舞「宇治の晒」の舞の稽古です。山下先生による
一対一の指導です。

謡は全員がうたい、それに合わせて舞います。
山下先生は、「とても上手になりましたね」と上達
ぶりを褒めていました。

◆狂言「仏師」



狂言「仏師」のセリフ読み

狂言「仏師」は、こども狂言クラブで初めて挑戦す
る狂言の演目となります。

山下先生の手本の後に、声に出して覚えていきます。
長く難しいセリフが続きますが、発音やイントネー
ションをまねて、物語のあらすじを思い浮かべながら
身につけていきます。



熱心に取り組みます。

習う演目の数が多い生徒の場合は、稽古始めから終
わりまで参加しており、体力的にも大変だったと思い
ます。

それでも、熱心に稽古に励んでいる姿が印象的で、
手ごたえを感じている様子がみられました。

◆本年度の取り組みについてのインタビュー

こども狂言クラブを代表して、狂言「鐘の音」という非常に難易度の高い演目を演じる高校2年生の男子生徒に話をお聞きしました。



狂言「鐘の音」

Q. 狂言「鐘の音」の初稽古でしたが、いかがでしたか？

A. 狂言「鐘の音」は、ほとんどが一人舞台で演目名にあるように鐘の音を自分の声を使って表現しなければならないのと、自分で謡をうたいながら舞わなければならないので、そういった部分でかなりテクニックがいる演目なのですが、挑戦していきたいです。



狂言「鐘の音」に挑戦する高校2年生の男子生徒

Q. 本日の稽古の感想をお聞かせいただけますか？

A. 稽古始めから終わりまで、全ての演目の稽古に参加したので、体力的な面でも大変な部分もありましたが、やっていくうちに狂言の面白さがわかってくるので良かったです。

——ありがとうございました。



稽古に取り組む様子

これまで数々の狂言を演じてきましたが、毎年新しい狂言に挑戦しているそうです。

こども狂言クラブの活動は、学校との両立もある中での稽古となりますが、今後の活躍に期待が膨らみます。



- 取材日 平成 25 年 7 月 28 日（日）
詳細：[こども狂言クラブ稽古日](#)
会場：伝国の杜・練習室
- 取材協力 伝国の杜こども狂言クラブのみなさん
指導者 和泉流狂言師 山下浩一郎先生
公益財団法人米沢上杉文化振興財団 伝国の杜・置賜文化ホール
- 執筆編集 置賜文化フォーラム編集員 佐藤道代